

# 研究紀要の創刊にあたって

宮崎県立看護大学研究紀要第1号を刊行できることになり、一言述べておきたい。

本学は、平成9年4月に開学した新しい大学である。長い間県立大学をもちたいと準備して来た県当局が、21世紀の超高齢社会の到来を見越した施策の一環として、大学の専門領域として看護学を選択したための出発であった。

そこで本学では、開学に先立って新しい大学の創造に向かったの理念、およびその実現のための教育課程の構築、学生の主体的な取り組みを促す教育環境の整備と教育方法の検討、専門の基盤づくりをすすめる研究環境の整備等について検討を重ねてきた。

大学改革が声高に論じられるさなかにあって、本学のように開学の目的が、「地域における人々の健康レベルの向上をめざして、主体的に個別なケアを展開できる看護職者を育成する」と明確に示されている場合には、大学の使命である教育・研究上の責務のうち、教育実践に比重がかかることは避けがたいことであった。

開学後3年を経過した現在、教育面では、〈人間生活と看護〉という大きな視点から、普遍科目・専門基礎科目・専門科目を統合したカリキュラムにそって、若い頭脳に〈どのような自己をめざすか〉という問いを日々投げかけつつ全教員で教育に当たってきた。その足どりの一端は、4学年が揃った本年創立記念日に、学生たち主体で新1年生に贈る行事〈看護大生3年間の育ち ― そのプロセスを観る〉として紹介される。

研究面では、教員各自が担当する授業科目の教育内容を根柢をもって展開するために、それまでの研究活動を継続するに留まらず、それぞれ新しい学問創造への夢と情熱と苦しみが伴った日々であった。月1回の研究集談会を開催して教員間の研究交流を重ね、現在ようやく各専門にまたがった共同研究も生まれてくる段階になった。

完成年度を迎えるに当たってまとめられた研究紀要第1号をみると、普遍・専門基礎・専門それぞれの領域からの投稿があって、創設期の激務のなかで教員各位の努力の様子や各領域の学的発展レベルを反映している様子が伝わってくる。

今後ともに本学の教育・研究の成果を公開することを通して、地域社会の発展に貢献していきたいと考えるので、一層の努力の上すぐれた論文の投稿を期待したい。

研究紀要委員会の諸先生方のご苦勞に感謝する。

平成12年4月

宮崎県立看護大学  
学長 薄井坦子